

依頼者	愛知県生涯学習推進センター
タイトル	「環境にやさしいまちづくり」をテーマとしたフォーラムの基調講演講師の紹介及び企画に対するアドバイス
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者の要望</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習を活かした地域づくりやまちづくりなどについて、毎年県民向けにテーマを変えてフォーラムを開催している。今年のテーマは「環境にやさしいまちづくり」であり、環境分野とまちづくりの両面から基調講演ができる講師を紹介してほしい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師の紹介</p> <p>【選定講師】東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻 都市計画研究室 准教授 村山顕人氏</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究データ等を中心とした難しい話ではなく、県民が身近に感じやすい話題や事例等を用いることができる学識者を紹介してほしいとの希望があり、まちづくりや建築・都市環境等を研究テーマとし講演をされることも多い5名の候補を提案した。検討の結果、昨年まで名古屋大学に在籍しており、現在も名古屋市中心部の錦二丁目にある長者町繊維問屋街で「低炭素まちづくり」をテーマとして環境に配慮したまちづくりに関わっている東京大学大学院准教授の村山顕人氏が選定された。 <p>○基調講演に関する提案</p> <p><講師に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> フォーラムの参加者が一般県民であり、まちづくりや環境の活動を専門的に行っている方が少ないと思われるので、データの羅列や専門用語の多用は避け、分かりやすい内容とすること パワーポイントでの写真、図等の表示で講演内容の参加者の理解を助けるようにすること 質疑応答など、会場とのコミュニケーションを積極的にとること <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> フォーラムの目的を明確にし、講師と共有すること 講師が表示するパワーポイント以外に参加者の理解の手助けとなる資料があれば、配付すること 	
<p>講演内容と当日の様子</p> <p><講演名></p> <p>みんなで考えよう！環境にやさしいまちづくり～未来に向けて《今《私たちにできること～ 「錦二丁目低炭素まちづくりプロジェクトの挑戦」</p> <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 「長者町繊維問屋街」を中心とする名古屋市中区の錦2丁目が「既成市街地の持続的再生を目指す産官学民協働のまちづくり」に挑戦している。第2次世界大戦後繊維産業を支えた錦2丁目も、不況や産業構造の変化により問屋の廃業が進み、空きビルや空き地・駐車場が目立ってきた。 そんな中、問屋街の独特の雰囲気や地下鉄からの利便性により、近年はアート活動や多様なスモールビジネス、新しい集合住宅や魅力的な店舗、オフィス開発の動きも出始めた。新しい街に生まれ変わろうという波に「低炭素」という要素を盛り込みながら地域住民・大学教授・建築家・行政・企業の連携によって現在進められているまちづくりを紹介。 	

- ・事例としては、北米の都市の低炭素化のまちづくりを参考にしたウッドテラスの設置や既存建物の木質化・マルシェの開催など。その都市型低炭素ライフスタイル・ワークスタイルの数値的な評価についても CO2 の排出量データを示しながら解説を行った。

<参加者数>

一般来場者：61 名

関係者：20 名（講師等）

<基調講演の結果>

- ・参加者からは、「基調講演は、大変分かりやすく、とても参考になった」「環境やまちづくりに無関心でしたが、いい学びのチャンスを作ってもらえた」などの感想があった。



(講演会の様子)

コーディネーターに対する感想

○依頼者

- ・開催の趣旨を十分に理解していただき、適切な講師を紹介していただいた。会の運営にあたって、事前の準備から快く引き受けてくださり感謝しています。
- ・詳細に講師に連絡をしてくださり、有難かったです。
- ・計画の段階から、当日まで細やかな対応をしていただき、初めて一緒に仕事をさせていただきましたが、学ぶことが多くありました。また、ぜひ一緒に仕事をさせていただきたいと思いました。

○基調講演講師

- ・打合せにおいて、依頼者とコーディネーターの役割分担がやや不明でありました。

その他

なし

依頼者	愛知県生涯学習推進センター
タイトル	「環境にやさしいまちづくり」をテーマとしたフォーラムの事例発表者紹介等及び企画に対するアドバイス
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者の要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習を活かした地域づくりやまちづくりなどについて、毎年県民向けにテーマを変えてフォーラムを開催している。今年のテーマは「環境にやさしいまちづくり」であり、事例発表者及びパネルディスカッションのコーディネーターを紹介してほしい。また、企画に対するアドバイスをもらいたい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○事例発表者の紹介</p> <p>【選定事例発表者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県立南陽高等学校 Nanyo Company(南陽カンパニー)部 (南陽高校生徒) ・大和リース(株)名古屋支店環境緑化営業所長 高村武志氏 ・名東区藤巻町自治会 岡田力美氏 ・基調講演者である村山氏と相談し、環境に配慮したまちづくりや、地域と行政・企業等との協働で進められているまちづくりを行っているセクター(企業、学校、団体)を事例発表者候補として紹介をした。 <p>○事例発表に関する提案</p> <p><事例発表者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダーが異なるため、参加者が理解しやすいように発表の仕方をできるだけ統一すること 内容①団体紹介、②地域の課題と目標、③取組内容、④他の主体との連携、資金確保に関する現状と課題、⑤将来に向けて(これからやりたいこと) ・パワーポイントの枚数を制限すること(内容毎に1枚、全5枚とする) <p>※参考資料としての写真、図に関しては枚数に数えない</p> <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムの目的を明確にし、事例発表者及びパネルディスカッションのコーディネーターと共有すること ・事例発表者が表示するパワーポイント以外に参加者の理解の手助けとなる資料があれば、配付すること ・発表内容に関しては、事前に全体で共有すること ・パネルディスカッションの内容は資料が揃った段階で、村山氏と打合せ、内容の大まかな確定をし、事前に各事例発表者へ連絡すること 	
<p>講演内容と当日の様子</p> <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ●愛知県立南陽高等学校 Nanyo Company(南陽カンパニー)部 「フェアトレードとカーボン・オフセットを活用した地域貢献」 ・地域貢献を目的として、地元の南陽町や蟹江町、また栄や東京などのイベントに出店し、フェアトレードやカーボン・オフセットを広める活動をしている。活動を通して、国際問題だけでなく環境問題にも目を向けてもらいながら、さらに地域を盛り上げていくことを目指している。 	

●大和リース(株) 高村武志氏 「環境緑化事業 (エコログリーン)」

- ・ビルの壁面緑化等の環境緑化事業に取り組んでいる。2013年に大阪府が進める「緑の大阪推進計画」のための企業協力として、大阪マルビルに壁面緑化を施し、灰皿撤去も行ったところ、親子連れを始め様々な方の新たなコミュニケーションの場を創出できた。その他、「こどもエコ・ワークショップ」を開催し、地域の小学校に子どもたちを招待して、楽しみながら環境を学ぶ機会も提供している。

●名東区藤巻町自治会 岡田力美氏 「住民と自然が共生する新しいまちづくり」

- ・藤巻町は住宅密集区域と樹林区域が混在しており、道路や下水道などのインフラが整っていないエリアがある。全住民アンケートを実施し、緑と共生する“まち”として住みたいとの意見が8割を占めたため、問題解決に向けて行政へ要望書を提出した。その後、大学の研究者や専門家とともに様々な取り組みを進め、組織も自治会の特定課題プロジェクトに発展させて、住民主導のまちづくりを進めている。

●パネルディスカッション

【コーディネーター】村山准教授

【パネリスト】事例発表者

「環境にやさしい新たなまちづくりへのアプローチ」と題して、①各事例の取組みでもっともうまくいったこと、あるいは重要な一歩だと思われること、その理由・成功要因、②失敗してしまったこと、その理由、失敗要因、③まちづくりでは一般に産官学民の多様な主体の「協働」「共創」が重要であり、力を合わせたからこそ達成できたこと、④産官学民連携のボトルネックについて、⑤個人及び団体として嬉しいこと、について話し合った。

<参加者数>

一般来場者：61名

関係者：20名（講師等）

<フォーラムの結果>

- ・「こういう取組を高校生ががんばっているということに驚きました」「環境とまちづくりの自治体や学校、企業の今の取組を知ることができて良かった」という感想があった。



(事例発表の様子)



(パネルディスカッションの様子)

コーディネーターに対する感想

○依頼者

- ・複数の団体との連絡調整を丁寧にしていただき大変助かりました。また、打合せに同行していただき、有難かったです。また、詳細に事例発表者及びコーディネーターへ連絡をしてくださったので有難かったです。

○事例発表者

- ・事前打合せがあり、フォーラム当日が初対面ではなかったため、コミュニケーションも取りやすかったです。

その他

なし

依頼者	木曾岬メガソーラー株式会社（丸紅株）
タイトル	太陽光発電・再生可能エネルギーをテーマとした体験講座について
<p>コーディネーターへの相談内容</p> <p>○依頼者の要望</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度内にソーラーキットを弥富市の8小学校の4年生を対象に配付してほしい。 木曾岬干拓地メガソーラー（太陽光発電・再生可能エネルギー）を題材にした環境学習プログラムの作成と授業実施を行ってほしい。 	
<p>コーディネーターの対応</p> <p>○外部講師等の紹介</p> <p>【事業委託先】一般社団法人環境創造研究センター</p> <ul style="list-style-type: none"> 愛知県地球温暖化防止活動推進センターを受託し、地球温暖化防止に関する環境学習や省エネ、再生エネルギー学習を実施している一般社団法人環境創造研究センターに相談、紹介し、決定した。 <p>【選定講師】愛知県教育大学 大鹿研究所(教授 大鹿聖公氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境学習プログラム作成及び授業実施に関しては、愛知県教育大学で理科教育を専攻し、エネルギー学習の実績のある大鹿研究所(教授 大鹿聖公氏)を紹介し、決定した。 <p>○学習内容の提案</p> <p><講師に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生に理解できる内容にすること 体験型ワークを行うこと 環境学習プログラムに事前事後学習の内容を補足として位置づけること <p>例：意見をまとめて発表する場をつくる、実際に行動できるように促す（親に話す、やったことを発表する等）</p> <p><依頼者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> 木曾岬メガソーラーの資料を配付すること 木曾岬メガソーラーの見学案内資料を作成し、学校へ配付すること キャリア教育の一環として、丸紅株の仕事内容を伝えること（希望がある場合） <p><その他></p> <p>今後の授業でESDを取り入れる方法について提案</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識や情報を一方的に提供する授業ではなく、参加型や体験型学習手法を重視した授業内容とすること 環境問題を「自分事」として捉え、認識し、「自分は何をすればよいのか」「自分には何ができるのか」について、個人ワーク、ペア学習、グループワーク、全体討論など、話し合うスケールを変えた場や時間を持つこと 未来の地球、未来の愛知、未来の地域（ふるさと）を想像し、どんな町、環境だったら暮らしやすいか、そのためには今何をすればよいのかについて、話し合う時間を持つこと 	

講演内容と当日の様子

<講座名>

木曾岬干拓地メガソーラー環境教育プログラム「暮らしの中で使っている電気はどのように作られているのか考えよう！」

<内容>

- ①【発問】電気を使うにはどうしたらよいだろうか。
乾電池、人力発電、ソーラーキットを活用する。
- ②【説明】普段使用している電気がどこで作られているか確認し、電気が様々な発電所で発電されていることを確認する。中部電力管内の発電所マップを使って、電気が多様な場所、発電方法で作られていることを示す。
- ③【発問と説明】日本で使われている主な5種類の発電所を取り上げ、仕組みと特徴についてまとめる。
発電方法と費用コスト、環境への影響、利点や決定を示す。
- ④【参加型学習】シミュレーション活動「弥富市の発電をまかなってみよう」
いくつかのエネルギーミックスのパターンを子ども達に提示し、サイコロを用いたシミュレーションアクティビティを行う。
- ⑤【発表】シミュレーションの結果発表
すべてのパターンに利点と欠点があることに気づく。3・11以降の日本のエネルギー供給のありかたが変わったことを伝える。
- ⑥【説明】提示したエネルギーミックスのパターンが、既存の国が実施していることを示す。
- ⑦【説明】国の事情に合わせてエネルギー供給の仕組みを考えていることを伝える。
- ⑧【まとめ】日本では、愛知県では、そして弥富市ではどのようなシナリオがよいかを考えていくことの大切さを伝える。
- ⑨【説明】木曾岬メガソーラーの特色を伝える。

<参加者数>

児童：35名（6年生）

<講座の結果>

- ・児童のアンケートから「発電所にはさまざまな種類があることを知った」「発電方法を少ししか知らなかったからたくさんあって驚いた」「欠点がない発電方法はないと知った」など、発電やエネルギーに対する関心、興味、学習意欲が高まったことがわかる。
- ・「空気や水を汚さずに簡単にできる発電方法はどのくらいあるのか」「今の日本は火力型、他の国の発電の仕方を知りたい」「欠点がなく、利点ばかりの発電方法はないのか」「どの発電の組合せが一番いいのかわきたい」「各発電所の電気をつくる量は同じなのかどうか」といった探究心の高まりが見られた。
- ・参加型によるシミュレーションアクティビティや発電キットなどツールを活用した授業展開が、子ども達の興味関心を高め、自分と電気、暮らしとエネルギーの関係性、私と地球環境の関係性を近づけ、エネルギーや発電、電気の使い方について、「自分の学習」「自分ごと」として捉えることができた。
- ・発問内容や、資料の提供方法、アクティビティの導入、ふりかえりなどをうまく取り入れたこの授業は、小学校高学年を対象にしたエネルギー学習のモデルとなった。



(講座の様子)

コーディネーターに対する感想

○依頼者

- ・継続的に実施することを強く希望する。
- ・小学校の先生が同様の授業ができるようなシステムづくりを要望する。
- ・支援を今後も継続したい。
- ・環境講座の実施も期待を超えるものであった。
- ・今年度中に実施できたことを評価する。

○外部講師

- ・子ども達にエネルギー問題を身近なテーマとして、またグローバルなテーマとして、その両面から理解させるきっかけ作りができたので大満足です。
- ・小学6年生対象の環境授業として、模範となる内容だと思う。
- ・今回の発展形として、グループワークと結果発表、木曽岬干拓地メガソーラーや川越火力発電所の見学等「継続」させる仕掛けが必要と考えます。

その他

なし